

公益財団法人 岡山文化芸術創造
Okayama Cultural Arts Creation Foundation

中期経営計画

【令和3年度～令和7年度】

目 次

【法人概要】 1

【地域における位置づけ】 2

【経営理念】 3

【経営方針】 3

【法人としての今後の取り組み】 4

【実施計画】 5

別添資料

【社会的役割（ミッション）】 ・ 【ビジョン】 7

【法人概要】

- 昭和59年11月1日 財団法人岡山文化施設整備センター設立
(基本財産 1億円 岡山県35%、岡山市35%、経済界30%)
- 昭和60年 3月 芸術音楽ホール（仮称）基本構想を策定
2,000席の音楽主体の多目的ホール等のホール整備構想
- 平成3年3月5日 財団法人岡山シンフォニーホールに名称変更
- 平成3年9月23日 岡山シンフォニーホール開館
- 平成18年4月1日 指定管理制度による第1期（10年）指定管理開始（岡山シンフォニーホール）
- 平成25年4月1日 公益財団法人岡山シンフォニーホールに移行認定
- 平成28年4月1日 第2期（5年）指定管理開始（岡山シンフォニーホール）
- 令和2年4月1日 公益財団法人岡山シンフォニーホールと
公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団の合併により、
公益財団法人岡山文化芸術創造に名称変更【基本財産:521,330,010円】
(内訳:岡山県 6.7%、岡山市 87.2%、経済界 5.8%、その他 0.3%)
- 令和3年4月1日 第3期（5年）指定管理開始（岡山シンフォニーホール）
- 令和3年4月1日 第1期（10年）指定管理開始（岡山芸術創造劇場）
- 令和5年9月1日 岡山芸術創造劇場開館（予定）

現在に至る

【地域における位置づけ】

岡山芸術創造劇場と岡山シンフォニーホールは、歴史的資産である岡山城、後樂園、旭川を中心に、日本でも稀な美術館、博物館、劇場等が集積した、城下町岡山のルーツである『歴史・文化エリア』と、400年の歴史を持つ県下最大規模の表町商店街を中心とする『旧城下町エリア』の南北軸線上に位置している。

岡山市民会館等の建て替え事業となる岡山芸術創造劇場は、2023年9月開館予定で演劇・舞踊系が主体の創造活動拠点となる予定であり、アコースティック音楽を強みとする岡山シンフォニーホールとの役割分担による文化芸術の創造活動強化と相乗効果により、「旧城下町エリア」全体が岡山の文化芸術の創造・育成・発信の拠点となることを目指している。



一方県都岡山市は、江戸時代より交通の要衝として発展した町である。鉄道はJR在来線が7路線乗り入れ、新幹線は全ての列車が停車。高速道路網は東西軸の山陽自動車道により関西と広島が、また南北軸の岡山自動車道等により、日本海から太平洋までが2時間内でアクセスできる。岡山空港は東京、札幌、沖縄、上海、ソウル、台北、香港へと空路を開いている。

そして、岡山は吉備の国という歴史文化の厚みのある地域であり、隣接する倉敷市・大原美術館や、福武財団による瀬戸内国際芸術祭、そして最近では当該エリアを中心として展開される現代アート展「岡山芸術交流」など、文化芸術に対する意識の高い地域である。

このような土壌から、1962年設立の少年合唱団「桃太郎少年合唱団」や、1965年設立 日本初の公立青少年オーケストラ「岡山市ジュニアオーケストラ」の活動が生まれ、今に続いている。

【経営理念】

公益財団法人岡山文化芸術創造は、文化芸術の振興に関する、多様な文化事業を創造し展開することにより、地域の文化活動の活性化と、文化芸術を担う次世代の人材育成等を図ることで、市民県民のすこやかで心豊かな生活の向上及び地域社会の発展に寄与することを目的とし、その活動エリアは岡山県下全域としている。

【経営方針】

当法人は、この目的の達成のために以下の事業を行うこととしている。

- (1) 文化芸術の創造・発信、振興及び普及に関する事業
- (2) 文化芸術における多世代の交流及び参画の機運醸成に関する事業
- (3) 文化芸術の担い手育成に関する事業
- (4) 文化芸術を鑑賞する機会の提供に関する事業
- (5) 文化芸術活動への支援及び研究に関する事業
- (6) 文化芸術施設等の管理運営に関する事業
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

事業実施にあたっては、1991年に設置され、中四国エリアにおいて、アコースティック音楽に最も優れ、国内外のアーティストから高い評価を受け続けている岡山シンフォニーホールと、ホール付きオーケストラとして年々その評価が高まる岡山フィルハーモニック管弦楽団の活動による音楽文化の発信力をさらに強化する。

一方2023年9月の開館を目指す岡山芸術創造劇場は、国内においても最高水準の高機能で最新の舞台設備を有する1,750席の大劇場、800席の中劇場、300席の小劇場、その他10室を超える練習室に、工房を備えた中四国随一の劇場としてスタートする予定である。

岡山芸術創造劇場は、さらに演劇、舞踊、総合音楽芸術などの制作、創造にかかる専門スタッフを擁し、岡山シンフォニーホールとも連携して、岡山の城下町エリア全体で中四国から、全国及び世界に向けて高質な文化芸術を発信していく、中核機能を担うこととなる。

さらに、表町商店街をはじめ、歴史文化エリアや旧城下町エリア全体を表現のステージとすることで、多世代、多分野にわたる、より多くの市民県民に参加機会と人材育成の場を提供し、岡山市の中心市街地活性化にも寄与します。

厳しい財政状況の中、法人の社会的役割（ミッション）を着実に推進するため、徹底した事務事業の見直しや法人改革などに取り組みつつ、職員一人ひとりの意欲・能力を最大限に発揮できるよう職員の人材育成などに取り組み、法人のチーム力を向上させてきました。

さらに、2020（令和2）年4月1日の法人合併を契機とした「働き方改革」として、労働時間の適正管理、正規・非正規の同一賃金・同一労働化、多様で柔軟な勤務形態の実現に向け、変形労働時間制を試行実施するとともに、庶務・労務・経理事務の集約化を一部実施するなど、業務効率化にも取り組んできました。

親切・丁寧なおもてなしの市民サービスを実施し、特に窓口業務については、迅速かつ正確な対応を心掛けることで、来館者の皆様からも高い評価をいただいています。

今後は、事務事業の見直しや、法人の機能強化を一層図るとともに、民間との協働により、様々な分野において、課題解決や地域活性化等の取組を推進します。

【法人としての今後の取り組み】

『岡山に暮らす人々が地域への愛着を持ちながら、いきいきと暮らせる豊かな文化都市を目指す』という岡山市の文化振興施策を実践するため、公益財団法人岡山文化芸術創造は貢献します。

岡山市や県と連携し、今まで培ってきた施設管理サービスのノウハウを活かしながら、他都市施設とのネットワークを強化し、多様化・複雑化する市民ニーズや社会的課題への対応において、市民や地域との協働をさらに進めていきます。

また、当法人の実施する事業やその役割を市民に効果的・魅力的に発信するとともに、専門性を活かした市民サービスの推進と、新たなサービスの支援・調査・研究を行います。

さらに、ICTを活用した業務の効率化や市民の利便性の向上に取り組むとともに、岡山シンフォニーホールと岡山芸術創造劇場の一体的な施設管理運営を行い、利用履歴データを重視した貸館対応等として、「記憶による管理」から「記録による管理」で市民サービスの向上を進めます。

少子化の進展による生産年齢人口の減少や高齢人口の増加は、法人の限られた経営資源に影響を与える中で、法人の社会的役割を推進するには、徹底した事業見直しや、事務の効率化・適正化など、不断の法人改革に取り組めます。

- I 情報発信、他都市施設との交流やネットワークづくり
- II 多世代交流、担い手育成、鑑賞機会の提供、文化芸術活動への支援・研究等の実施
- III 施設の利用促進、職員のスキルアップ、法人の体制強化

【実施計画】

法人として目的達成のための具体的な取り組みを次のとおり進めていきます。

I 情報発信、他都市施設との交流やネットワークづくり

① ネットワーク事業の拡充として、他都市施設との連携事業回数増を図る。

1) 他都市施設との交流やネットワークづくりを拡充（公演数）

年度	令和元年度／令和2年度(実績)	令和7年度(目標)
目標	18公演 / 4公演	30公演

2) 岡フィル等の依頼公演の充実（公演数）

年度	令和元年度／令和2年度(実績)	令和7年度(目標)
目標	46公演 / 23公演	60公演

② ICTを活用したホームページ等での広報活動を積極的に行い、新たな顧客（利用者・チケット購入者・事業参加者）の獲得に努める。

1) 法人ホームページのページビュー数の拡大（アクセス解析）

年度	令和元年度／令和2年度(実績)	令和7年度(目標)
目標	未開設 / 47,464回数	100,000回数

2) 岡山シンフォニーホールホームページのページビュー数の拡大（アクセス解析）

年度	令和元年度／令和2年度(実績)	令和7年度(目標)
目標	578,082回数 / 371,414回数	600,000回数

II 多世代交流、担い手育成、鑑賞機会の提供、文化芸術活動への支援・研究等の実施

③ レベルの高い指導による講座、公演等で、多種・多彩な文化芸術ジャンルの技能・知識の向上と豊かな情操や、コミュニケーション能力を養い、地域の文化活動を担う人材や団体、文化芸術の担い手育成に努める。

1) プロ講師による基礎から学ぶ講座、ワークショップ及び発表公演数の拡大

年度	令和元年度／令和2年度(実績)	令和7年度(目標)
目標	140公演 / 106公演	200公演

2) 岡フィル等の岡山県内公演回数数の充実（公演数）

（定期演奏会、第九演奏会、スクールコンサート、ハッピーハートフルコンサート等）

年度	令和元年度／令和2年度(実績)	令和7年度(目標)
目標	86公演 / 77公演	100公演

Ⅲ 施設の利用促進、職員のスキルアップ、法人の体制強化

- ④ 各施設の利用促進に向けたサービス・PR活動を積極的に行い、新たな顧客の獲得に努めるとともに、施設利用者に対しては利用者アンケートを実施しニーズに合った施設の管理運営を行うことで利用者増を図る。

1) 岡山シンフォニーホール（大ホール）の稼働率の確保

年度	令和元年度／令和2年度(実績)	令和7年度(目標)
目標	65.6% / 33.7%	75.0%

- ⑤ 法人の社会的役割（ミッション）を着実に実施するため、徹底した事業見直しや内部管理業務の事務の効率化など、「不断の法人改革」を行うとともに、データやICTを活用した効率的・効果的な法人運営に向けた組織体制の強化を図る。

1) 法人職員のスキルアップ（専門性、機動性）向上のため、研修計画の確保

年度	令和元年度／令和2年度(実績)	令和7年度(目標)
目標	55件 / 27件	60件

令和元年度は、合併前のそれぞれ法人の数値を加えている。

なお、岡山芸術創造劇場に関する目標設定については、今後、必要な改正を適宜行うこととします。

別添資料

【社会的役割（ミッション）】 岡山シンフォニーホール

岡山シンフォニーホール

既存の多目的ホールである岡山市民会館と差別化を図る形で、当時日本でも数少ない“音楽ホール”として、1991年に岡山県・岡山市・経済界共同事業により設置。アコースティック音楽に最適なホールとして、国内外のアーティストから高い評価を受けており、開館以来29年間で、約800万人の方に利用される県下最大の公演会場である。

2021年9月に開館30周年を迎える。

2002年 第22回有馬賞受賞
(NHK交響楽団)

2005年 サントリーホールと姉妹ホール締結

2012年 第13回岡山芸術文化賞グランプリ受賞
[開館20周年記念事業]

ホール付きプロオーケストラ “岡山フィルハーモニック 管弦楽団”

岡山シンフォニーホールを拠点とし、1992年に設立された岡山初のプロオーケストラ。地域における音楽芸術振興の中心的役割を担う。

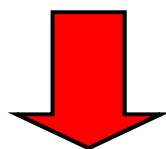
2013年～
首席指揮者：ハスィェルク・シェンベルグ - 就任
2018年～

日本オーケストラ連盟に準会員として加盟
2018年～

首席奏者：全国公募オーディションで決定
2020年7月～

ラジオ番組「ブラボー!!岡フィル!!
～もっとクラシック～」開始

(毎週日曜 15:30～16:00 RSK山陽放送)
2009年 岡山県教育関係功労者表彰受賞
2012年 山陽新聞奨励賞受賞【文化部門】



社会的役割（ミッション）

- (1) 中四国エリアにおけるアコースティック音楽公演の中核としての役割を担い続ける。
- (2) 中四国唯一のホール付きオーケストラの特性を活かし、生オーケストラによる舞台芸術の創造活動の拠点を担う。
- (3) 未来を担う子どもたちをはじめ、多様な対象者に向けて文化芸術に触れる機会をつくり、まちづくり・観光・国際交流等の施策と連携して地域社会の活性化に貢献する。

【ビジョン】 岡山シンフォニーホール

- ① 『文化芸術性・都市ブランドの向上』 鑑賞者をはじめ地域の皆様に
中四国エリアにおいて最高のアコースティック音楽公演の中核として、国内外の優れた音楽芸術の鑑賞機会を提供する。

活動内容：国内外で活躍するアーティストの招へい、岡山フィルハーモニック管弦楽団演奏会、
NHK交響楽団演奏会、小曾根真ソロ・リサイタル 等

- ② 『心豊かな教育への貢献』 未来を担う子どもたちに
子ども達に本物の音楽に触れる機会をつくり、文化芸術の底上げを図るとともに、豊かな感性と情操を育むことに寄与する。

活動内容：小編成～フルオーケストラでの学校公演（80公演・11,000人/年）、
0歳からのオーケストラコンサート（3公演・2,500人/年 県内3カ所）、
小中学生対象の音楽鑑賞会、子どもたちに舞台芸術に触れる機会を提供する
ホールフェスティバル（シフォニーは友達!） 等

- ③ 『明日を担う人材の育成』 文化芸術を担う若いアーティストたちに
地域の芸術文化を担うアーティスト達を育成するとともに、その表現の機会を提供することで、日本へ世界へ羽ばたく人材を輩出する。

活動内容：演奏家を志す人たちにオーケストラとの共演機会の提供（I am a SOLOIST）、
一流のアーティストによる公開レッスン（器楽・声楽）、
東京藝術大学と連携した公開レッスン、ミュージカルワークショップ、
MOST in Japan 岡山公演（若手音楽家達との共同企画） 等

- ④ 『社会的包摂の取組推進』 日常的に文化芸術に触れる機会の少ない人たちに
日常的に芸術文化に触れることが困難な人に音楽の魅力を届け、誰もが等しく心豊かな生活を送ることができる社会構築を目指す。

活動内容：病院・福祉施設・支援学校等での演奏会（レインボーコンサート 2000年～ 計154公演）、
鑑賞機会の少ない県内地域や災害被災地での演奏会、
ホール公演への招待（ひとり親家庭、災害・震災被災者等） 等

⑤ 『岡山の活性化』 地域社会への貢献

まちづくり、観光、国際交流等の施策と連携して、岡山の社会の活力向上に寄与する。

活動内容：近隣の文化施設（美術館・図書館・博物館等）・日本三名園 岡山後楽園での演奏会、

矢掛町(県南西部)の宿場町クラシック（依頼公演）、

街角コンサート（商店街・駅前広場・ショッピングモール他）、

「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」(音楽と映像と語り) ※2020年度「日本博」採択

地元プロスポーツチーム ファジアーノ岡山（Jリーグ）・シーガルズ（Vリーグ）

ホーム戦での演奏会、市民参加型の歌の講座 等

⑥ 『コロナ禍での取り組み』 with コロナ時代にミッションを達成するために

館の運営：最新情報の把握や他館との情報共有に努め、国や関係機関のガイドラインに沿ったすべての人が安心して来場できる取り組みを行っている。

(一例) 有名作曲家が「私の指定席です」と主張する絵を半数の座席に貼り感染症対策を実施。SNSやTVで全国的に話題となる。

主催事業：野外コンサート（岡フィル街角コンサート、岡山城コンサート、石山公園コンサート他）、

ドライブインシアターコンサート（遊園地（おもちゃ王国）駐車場）

オンライン（病院でのライブ配信コンサート（病室のテレビ及びYouTube配信）、

オンラインワークショップ・オーディション（ミュージックワークショップ））

⑦ 『持続可能なホール運営』 各ステークホルダーと連携し、地域全体で支えられる劇場に

専門的知識・技術に裏打ちされたノウハウの継承により、常に専門性を維持し、技術的・安定的な事業運営につなげる。

また適正な人材、予算管理等、安定した経営とホールのミッション達成のために確実な目標管理を行う組織マネジメントを構築する。

【社会的役割（ミッション）】 岡山芸術創造劇場

岡山芸術創造劇場

市民の自主的な文化芸術に関する活動を促進し、岡山の文化芸術の一層の発展及び新たな文化芸術の創造を図るとともに、広域的な交流を促進し、まちのにぎわいの創出につなげ、もって心豊かで活力のある地域社会の実現に寄与する。ことを目的として設置されている劇場である。

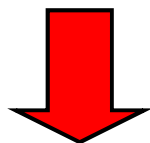
ビジョンとして「文化活動の拠点として、創造的な活動や事業（文化事業・施設事業・自主事業）の展開を図ることにより、岡山独自の文化芸術を創り出し、表町・千日前から岡山市及び国内外へ発信していく創造型の劇場をめざすことで、未来へ躍動する岡山を築く」とあり、具体的なコンセプトは下記の3項目となっている。

コンセプト

魅せる⇒市民が優れた文化芸術に触れ、親しむ機会をさらに広げていきます。

集う⇒多くの市民や岡山市を訪れた方々誰もが訪れることのできる施設とし、文化芸術を通し岡山市の魅力を楽しむことのできる施設とします。

つくる⇒岡山市の新しい文化芸術を創造し、発信します。



社会的役割（ミッション）

- (1) 【心豊かな市民生活（共生社会）、活力と賑わいあふれる地域社会を実現します】
多様な価値観が存在する文化芸術の活動に関わることは、一人一人の心に潤いをもたらし、多様な価値を認めあい互いを尊重しあう、豊かな社会を実現する力になります。本施設での事業を通じて、豊かな市民生活、地域社会の実現に貢献します。
- (2) 【未来にはばたく子ども達を育てます】
本施設が展開するアウトリーチ事業・子ども対象のワークショップ事業を通じ、岡山の将来を担う子ども達が文化芸術に触れ、文化的な成長ができる環境を整えていきます。このミッションは「SDGs4」4.7質の高い教育をみんなに（すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する）の課題解決となります。
- (3) 【創造力を養い、文化力を育む都市基盤を築きます】
文化が備えている、人々に元気を与え地域社会を活性化させる力を育む拠点とし、文化の創造力を活かした魅力ある社会づくりができる環境を整えます。

【ビジョン】 岡山芸術創造劇場

① 『日本一の劇場運営を目指します』

活動計画 文化に対する理解度が高い行政と交通のクロスポイントである環境を活かし、中四国初の創造型劇場としての文化発信の拠点劇場となります。創造活動を中心とした日本一の劇場運営を目指し、開館5年後には「劇場・音楽堂等機能強化総合支援」事業に選択されることを視野にいたした運営を実施します。

② 『国内から海外へと創造作品を発信します』

劇場で制作した演劇・ダンス等の作品を他のホール・劇場で公演します。近隣の施設から全国へと広げ、岡山市の海外姉妹都市においても、劇場で制作した作品を上演することも目標に創造事業を実施していきます。海外公演については財団全体として取り組み、劇場で創作した作品の公演や岡山フィルハーモニー管弦楽団の演奏会等、財団としての連携公演にすることで、文化都市岡山のアピールの一つとなります。

③ 『舞台人（制作者・技術者・実演家）が育つ施設を目指します』

劇場の創造活動にて研鑽を積んだ舞台人が、岡山で活動の場を広げ、地元の文化発展に貢献すること、また、岡山から他の地域に移って活躍した後岡山に戻り、学び培った技術や知見を発揮してもらうことでも、岡山の文化振興発展につながっていきます。そのような選択肢の幅を広げることができる、舞台人を育む劇場を目指します。

④ 『デジタル・AIを活用した劇場運営を実施します』

デジタル庁発足によるあらゆる行政機能のICT活用推進に備え文化行政・公共ホール運営における全国のフロントランナーとなることを目指して、劇場広報・集客・運営管理一体化に向けた、総合型シアター運営デジタルツール「ocac 劇場アプリ（仮称）」（以下劇場アプリ）を作成し活用した劇場運営をおこないます。劇場アプリとは、行政・劇場・施設使用者・表町商店街・来館者（鑑賞、ギャラリー）を一つにつなぐアプリのことです。また、このノウハウを全国の劇場施設に広げていきたいと考えています。

⑤ 『舞台人が住む街＝岡山市をつくります』

アーティストインレジデンス・アーティストインシティに向けて、劇場職員の一部は、通常業務と俳優のダブルワークが可能な人材を採用します。劇場で創る舞台公演に俳優として出演し劇場業務も行うことで、劇場に行けば舞台で観た俳優に会える、アーティストと触れ合うことができる街となります。さらに人とのつながりから、ワークショップやワークインプログレスでの参加者を増やし、芸術への興味関心が高い文化の街岡山をつくります。

⑥ 『市民が気軽に行ける場（文化交流拠点）をつくります』

3階ギャラリーには劇場の調査研究・情報提供職員が作成した資料や芸術アーカイブコーナー、チケット販売コーナー、芸術図書、音楽イベントチラシ、観光イベントリーフレット等の展示スペースを設置し、劇場近くに来られた方が「ちょっと寄っていきこうか!」と思えるような場としていきます。また、劇場主催公演ではボランティアスタッフとの協働によるお客様サービスを行う予定です。

⑦ 『芸術文化を通して、共生社会の実現を目指します』

社会的に弱い立場にある人々をも含め共に支え合う社会実現へ向けて、福祉や教育の分野とも協働し、芸術文化を活かした社会包摂の取り組みを行います。